
そよ風が吹く

あくあ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
そよ風が吹く

【Nコード】
N1122B

【作者名】
あくあ

【あらすじ】
失恋をした女の子のある日の他愛もない会話。

(前書き)

乙女心ですよ。

「はあああゝゝあ。」

私、森田美香はでつかいたため息をついた
もちろん隣にいる親友、瑠璃に聞こえるように

「何したのよ美香。ため息ついて。」

幸せ逃げるよ。なんて瑠璃は言うが、逃げているから
ため息をつくんであつて、ため息をつくから逃げる訳じゃないと私は思う

「窓の外眺めてるとき、なんか悲しくなつて。」

「なにが？」

あ。…と瑠璃は何かを思い出したらしい

「もしかして先輩のこと？」

気づいてくれた

そうなのだ。私の好きだった先輩に最近彼女が出来たのだ

「…そ。」

「奪っちゃえばいいじゃん。そんなに好きならさ。」

瑠璃はこういうこだ。悩み事が少なさそう

「もゝ…それができたら苦勞しないよ。」

「はは。まあね」

あははと瑠璃は笑って騒がしい教室の方に向き直った

「……もし私が先輩と付き合ったとして。」

「うん。」

仮説を私は語り始めた

瑠璃は教室を眺めながら相槌を打つ

「私から先輩を奪いたいって人がいるとする。」

「うん。」

「それで奪われたら、私すごい嫌だし泣くと思う。」

「うーん……」

「そんなこと、先輩の彼女にするのやだもん。」

「そっか……」

卑怯者のすることかもしれないね。と瑠璃は言った

そりゃあ先輩は好きだけど、大好きな先輩の大好きな人を傷つけたら、私は人間として駄目かも知れない

「だからさ。」

瑠璃は私を見つめた

「新しい恋を探そうと思う。」

瑠璃はにこつと笑って言った。

「そうだね。男は先輩だけじゃないよ。」

「うん。」

そよ風が優しく私達を包んでくれた

（後書き）

好きな人の幸せを願ってる子の話でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1122b/>

そよ風が吹く

2010年10月8日13時01分発行